

月別概況（令和4年）水産

1月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 961 円

一般近海及び小釣物では、平目水揚げが多いが高値保合、スズキ多く安値、赤舌、ガンゾウ多く安値、トラフグ安値保合、グレ入荷安定保合、サワラ入荷安定保合。青物ではサバ、県外特に青森からの入荷安定値は保合、イワシ千葉県からの入荷安定保合、ブリ日本海からの入荷安定しているが安値、アジの入荷は少なく強保合。養殖物ではカンパチ、ハマチ、ブリ少なく浜値上昇売値堅調。太物では、ヨコ長崎の釣り物の水揚げ多い、サイズは5K～1.5K安値安定、ビン全国的に水揚げが少なく入荷不安定で浜値も高い、カツヲ高知主体、関東のよびこみが強く浜値が高い、売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 919 円

紅サケ、銀サケ共に値上げが激しい。コロナで海外加工品の搬入が減っている。海外輸入品は全て値上げになっている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 513 円

ちりめん漁は、前半に南で漁が少し取れていたが、後半は漁が少なくなり値は昨年より安い。

2月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,013 円

一般近海及び小釣物では平目、底曳多いが前年より高値続く。コチ、スズキ多く安値保合。メバル入荷安定保合。タコ入荷少なく高値続く。グレ入荷安定保合。青物ではサバ県外主に千葉からの入荷安定値は高値安定。アジは小アジが高知からの入荷安定で高値安定。日本海からツバスの入荷が多く保合。イワシ千葉からの入荷安定保合。養殖物ではカンパチ在地少なく浜値上昇売り低調、ハマチ、ブリ在地少なく浜値変わらず売り堅調。太物では、ヨコ長崎の釣物が前半多く後半は少ない。ビンほとんどなし、カツヲは鹿児島島の7KG以上が多くて安定。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 925 円

エビ加工品、原料共に搬入少なく現地ドル価も上昇し、すべて相場強含みになっている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 411 円

香川でいかなご漁が始まり値は昨年より高い、めかぶの漁が始まり漁は少なく値も少し高い。

3月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 922 円

一般近海及び小釣では白甘水揚げ安定保合、平目水揚げ安定保合、油目、ワタリ水揚げ少なく高値、オコゼ、ヤセ多く高値、アオリイカ少なく高値。青物ではサバ県外、三重、千葉からの入荷安定値は保合、アジ県外からの入荷安定保合、県南大敷網のブリが多くなってきた。値は日によってまちまち、サワラ高く手がでなかった。養殖物ではハマチは変わらず在りは少なく品薄高、カンパチ、ヒラマサもつられ強含み、タイ、ヒラメは強保合である。太物では、ヨコ和歌山・高知の2－3尾が中心で高値安定、ビン鹿児島、宮崎が中心で安値安定、カツヲ鹿児島3Kが中心で売値K800－1000円需要が増えてきた。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 814 円

凍魚、輸入コストの増加、為替、原料不足等で全て商材で1－2割の値上がりとなった。中国工場の稼働率も悪く入船、通関の遅れから多くの商材で製品不足となっている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 335 円

ちりめんの漁は高知で少し取れ値は高い、香川のいかなごは昨年より多く値も高い。

4月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 944 円

一般近海及び小釣物では、鱧底曳水揚げ少なく高値、釣り物水揚げ多いが高値、カレイ水揚げ多く安値、平目入荷安定保合、タコ下げ相場、オコゼやせ多く安値、メイタ入荷安定保合。青物ではサバ県外からの入荷安定保合、ブリ県南からの入荷安定保合、サワラ少なく、かなり高かったが月後半頃から入荷かなり多くなり安値。養殖物では、ハマチは大分方面中心在地少なく強含み。カンパチは高知、大分方面中心在地少なく強含み。太物では、ヨコ高知の2～3KG が中心で高値安定、ビン鹿児島、宮崎が中心で安値安定カツオ高知が中心で浜値が高く売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,010 円

海外のマタコは、欧米の引き合いが強く値段は高水準を横ばいのまま、国内のマタコは、原料不足により昨年よりも高いが夏場にかけて値段は下がっている。北海水タコ及び北海柳タコは、例年より相場がかなり高くなり柳タコはK 2 0 0 0 オーバー。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 482 円

ちりめん漁は昨年より少ない。塩ワカメは昨年より少なく値も高い。

5月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 899 円

一般近海及び小釣物では鱧水揚げ少なく高値、平目入荷多いが前年より相場保合、オコゼヤセボテ多く安値、カレイ相場少しずつ上がる。コチ、コショウダイ、チヌ水揚げ多く安値。青物ではマサバ県外からの入荷安定保合、夏が近づくにつれゴマサバが増えてきた。アジは豆アジが多いが値は下落、スルメイカ日本海からの入荷あるが浜値に届かず、イワシ日本海からの入荷安定保合。養殖物ではハマチ、ブリカンパチ高値安定、タイ、シマアジ、ヒラマサ強含み、ヒラメは横ばい、活鰻は一層高予想。太物では、ヨコ徳島県産主体水揚げ量が多くないので高値安定、ビン高知県主体水揚げ多く暴落した日が続く。カツヲ高知県主体水揚げ多く浜値は下がったが入荷量が多く売値も厳しい。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 911 円

銀サケフィーレ原料が高騰している。アトラン、トラウト、紅サケも国内在庫が少ない為高値で水準している。地タコ原料も引き合いが強い。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 260 円

ちりめん漁は、先月より増え、値も昨年より高い。

6月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 957 円

一般近海及び小釣物では鱧水揚げ少なく高値、ヒラメ保合、マコカレイ高値、チヌ、コショウタイ、コチ水揚げ多く安値、タコ下げ相場、平アジ少なく高値。青物ではマサバ千葉からの入荷安定保合、ゴマサバの入荷も増えてきて保合、豆アジ県南、高知からの入荷安定、K約300円だった。イワシ系は日本海か、千葉からの入荷安定保合、スルメイカ日本海からの入荷安定、こちらは日によってまちまち。養殖物では全魚種において品薄高になっている。特にハマチ、ブリ類に関しては最高値を更新中であり、末端のスーパーも売値が高くなりすぎ売れも半減している。太物では、ヨコ徳島、和歌山が中心で水揚げ多くないので高値安定、ビン高知県主体水揚げが多く浜値、売値共に安値、カツヲ高知が主体水揚げが減ってきて浜値が上がり売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 963 円

ブラックタイガー、バナメイエビ共に国内在庫薄く現地ドル価、為替の影響もあり相場強含みが続いており天然エビ、加工品も同様の状況にある。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 536 円

ちりめん漁は、昨年より多く値も高い。香川の煮干は漁が少なく値は昨年より高い。

7月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,192 円

近海及び小釣物では鱧入荷安定するが高値保合、マコカレイ入荷安定高値保合、平目、スズキ、コチ入荷安定保合。青物ではサバはゴマサバ県内外からの入荷安定保合、ブリ日本海からの入荷安定安値、アジ類は豆アジ県南、高知からの入荷安定安値、丸アジ九州から入荷安定するも安値、カマス愛媛から入荷安定保合。養殖物ではハマチ、ブリ、カンパチ品薄の為一段高となっており販売の方が高値についていけず売れ行き悪し、その他の魚種もつられ高値安定。太物では、ヨコ青森、島根が中心ヤケが混ざっていて安値の日が続く、ビン高知が中心浜値が高くて売りがついてこない、カツオ高知が中心浜値が高くて売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,185 円

ホタテ貝の単価が去年の倍近い価格で推移、製品単価も値上がり止まらず売りがついてこない。カツオタタキP S以上の製品で品薄が続く、東沖の漁が始まるまで高値安定。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 554 円

ちりめん漁は多く値も昨年より高値で安定、煮干は漁が少なく昨年より高い。

8月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,117 円

一般近海及び小釣物では、鱧釣り、底曳き少なく例年より高値続く。平目、マコカレイ、アッコ水揚げ少なく高値。ボーゼ水揚げ安定、安値保合。ワタリガニ多く安値。青物ではサバ日本海、九州からの入荷安定保合、イワシ日本海からの入荷安定保合、県南からスルメイカが入荷安定保合。アジ類は九州から形の良い物が入荷していたが安値だった。養殖物では瀬戸内のカンパチの出荷が始まるも高値の為売れ悪し、ハマチ、ブリも高値の為、スーパー等の特売アイテムから外されて売れ悪し。太物では、ヨコ青森、宮城が中心水揚げ少なく高値安定、ビン高知が中心水揚げ少なく高値売りがついてこない、カツヲ高知が中心水揚げが減ってきて高値売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,044 円

海外の真蛸でモーリタニア産はよくとれたが、モロッコ等が不漁及び為替が円安という状態なので依然として高値をいっている。また大型原料が国内に無い為、小型中心の売りになっていく。国産タコは去年よりやや高くまだまだ厳しい戦いになりそうだ。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 685 円

ちりめん漁が全国的に少なく値は高い、返りも少なく値は高い。

9月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 922 円

一般近海及び小釣物では太刀魚、ボーゼ水揚げ多いがサイズ小さく安値、鱧水揚げ少なく高値、ハマチ類多く安値、タコ入荷少なく高値。青物ではサバ日本海、九州からの入荷安定保合で安値、アジ系小アジ県内外からの入荷安定、値は上下幅大きい。サンマの入荷多くなってきたが、浜値に全く届かないので入荷も少なくせざるをえなかった。イワシ日本海からの入荷が安定、値も安定。養殖物ではハマチ、カンパチ高値安定の為売れ悪し、特にハマチは天然物の入荷が多く安値の為、スーパー、回転寿司等も天然物の引き合いが強くなり養殖物は苦戦している。太物では、ヨコ宮城が中心水揚げ少なく浜値が高く薄利となった。徳島、高知で小ヨコの水揚げが始まり続けて売ると相場が下がっていったが利益につながられた。ビン、カツオは高知が中心で全国的に水揚げ少なく浜値が高くて売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,055 円

アトラン、トラウト、トリム製品高値安定、定塩銀サケフィーレは売れが鋭い為、メーカーがスポットで特売をしている。地タコ原料は昨年より価格は安く仕入れできている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 604 円

ちりめん漁は全国的に少なく値は高い。

10月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 958 円

一般近海及び小釣物では平目入荷安定保合、タコ水揚げ少なく高値、シオ水揚げ多く下げ相場、ハマチ類多く安値、丸ハゲサイズ小さく安値、アオリイカ水揚げ少なく高値保合。青物ではサバ全国からの入荷安定保合、北海道からのサンマが入荷安定保合、アジ類丸アジは九州から入荷があったが値は浜値にも届かない。イワシ日本海からの入荷安定保合。養殖物では先月同様養殖物、各魚種高値安定である為、天然物のお荷次第ではあるが売りは苦戦している状況であり年内はこの状況が続くであろう。太物では、ヨコ徳島、高知の小サイズが中心で高値安定、ビン高知、宮崎、鹿児島が中心で浜値が高く売りがついてこず入荷が不安定。カツヲ高知中心で浜値が高すぎるので売りが浜値にも届かない日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,138 円

ブラックタイガー、バナメイエビ搬入は増加しているが、高値横ばいが続いている。秋サケは昨年に続いて豊漁であったためイクラは下げ相場。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 705 円

ちりめん漁が少なく値は高い。数の子は昨年より少し高い。

11月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,008 円

一般近海及び小釣物では、グレ、イサキ入荷安定保合、タコ入荷少なく保合、ハマチ類水揚げ多く安値保合、平アジ少なく高値、丸ハゲ類肥えてる分だけ高値で水揚げ安定するがヤセ多く保合。青物ではサバ日本海、九州からの入荷安定保合、サンマ北海道からの入荷安定も値は浜値に届かず。イワシ日本海からの入荷安定保合、アジ系県南からの入荷安定、小アジ大アジ共に保合。養殖物では、11月に入り天然ハマチのお荷量が不安定となり養殖物の荷動きが少し良くなった。養殖物全般に相場は横ばいであるが平目だけが強含みである。太物では、ヨコ高知が中心、室戸沖に2K前後のヨコが続けて水揚げがあり暴落した日が続く。5

Kから上のサイズは全国的に少なく高値。ビン、カツヲは高知が中心水揚げ少なく浜値が高く場内の売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,275 円

貝柱が高値になり売りが鈍い、カツヲの水揚げが悪く高値、小型サイズは欠品傾向。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 696 円

ちりめん漁は全国的に少なく値も高い。イクラ、サケは昨年より値は高い。

12月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,148 円

一般近海及び及び小釣物では長ハゲ、丸ハゲ多く安値、グレ県南より毎日200K以上あり安値、平目水揚げ多いが保合、タコ入荷少ないが保合、トラフグ等高級魚水揚げ少ないが高値出ず保合。青物ではサバ全国からの入荷安定するが浜値が高い、アジ県南からの入荷安定保合、イワシ日本海からの入荷安定保合県外の青物浜値が高く入荷が少ない状況が続いた。養殖物ではブリ、ハマチ、カンパチ、タイ共に高値で推移したが後半に向けて荷動きは良かった。太物では、本ヨコ高知、長崎が中心で6K以上は高値、それ以下のサイズは水揚げ多く安値、ビン高知、鹿児島が中心、キハダが少ない関係で水揚げが不安定で浜値も高く売りがついてこない。カツヲ高知中心全国的に水揚げ少なく高値。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,241 円

海外の真蛸の大きいサイズは依然として国内在庫が少なく小型タコ中心になっている。国産の真蛸の相場は高値からやや高値と安定はしてきた。生の水タコは国内在庫が少なく昨年よりも2倍近い価格になっている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 659 円

ちりめんの漁は少なく値は高い。数の子、イクラは昨年より少なく値は高い。